

流約 12km の捷水路工事が施行されてきたが、昭和 22 年からの連年の大洪水により上流部築堤は被害を受けたため、ここに一環した治水対策の樹立が叫ばれた。

3. 基本資料

(i) 雨量 観測所数は次のごとくである。

一迫川流域 4 箇所 内自記 3 箇所

二迫川流域 2 箇所 内自記 1 箇所

三迫川流域 3 箇所 内自記 2 箇所

本川の流量を支配する流域は、大林上流の 556 km² である。明. 30 以降の記録でみれば、計画の対照となる流域内平均連続雨量は、第 1 位がアイオン、カザリン両台風の 350 mm、流域内平均日雨量は、第 1 位がアイオンの 330 mm で、第 2 位は 175 mm である。

(ii) 水位、流量 水位並びに流量観測所は数箇所あるがほとんど使用し得る記録はない。ただ 昭. 25. 8 若柳における最大流量は 1 040 m³/sec であった。

4. 計画洪水流量 計画の対照となる日雨量は前記のアイオン台風時 330 mm であり、きわめて強度の降雨であるが、この雨相、雨量及び洪水痕跡を勘案して、最大流量を 2 300 m³/sec と決定した。

5. 洪水量の調節 (i) 花山ダムによる調節 集水面積 127 km²、洪水調節容量 2 000 万 m³ のダムにより一迫川における流量 550 m³/sec を調節する。

(ii) 玉山ダムによる調節 集水面積 53 km²、洪水調節容量 1 000 万 m³ のダムにより三迫川の流量を 200 m³/sec だけ調節する。

以上の 2 ダムにより大林においては 700 m³/sec が調節され、洪水

流量は 1 600 m³/sec となる。ダム完成後の洪水流量算出には、両ダム地点から上流の流量は、洪水時のピークには一滴も参加しないこととした(表-2)。

(iii) 長沼及び南谷地遊水池における調節 佐沼狭窄部下流の洪水流量処理の目的をもつて、三方島兩岸に水門を設け、計画総貯水量 2 200 万 m³ の長沼と、830 万 m³ の南谷地とにより 850 m³/sec を調節する。

(iv) 森遊水池における調節 三方島において調節後の流量 750 m³/sec は、佐沼町上流部において夏川の 180 m³/sec を加え 930 m³/sec となるが、下流捷水路の通水能力の不足並びに旧北上川への影響の削減のため、佐沼町下流左岸にある総貯水量 120 万 m³ の森遊水池により 850 m³/sec に調節する。

6. 結 語 上述のごとく迫川の洪水量の調節はきわめて複雑なので統制ある操作を行わなければならない。

表-1

河 川 名	地 点	流域面積	流路延長
		km ²	km
一 迫 川	大 岡 村 大 林	248	50.5
二 迫 川	志 波 姫 村 刈 敷	170	34.0
三 迫 川	大 岡 村 大 林	138	36.5
迫 川	大 岡 村 大 林	556	50.5
"	旧 北 上 川 合 流 点	913	84.0

表-2

河 川 名	ダム完成前	ダム完成後
	m ³ /sec	m ³ /sec
一 迫 川	1 350	800
二 迫 川	900	900
三 迫 川	700	500
一、二 迫 川 合 流 後	1 650	1 250
大 林 に お け る 合 成	2 300	1 600

(2-22) 極大洪水量公式に関する研究

正員 韓国立京城大学 元

泰 常